

補助金調査・評価シート [制度的補助]

補助金名等			
補助金の名称	市内循環バス運行補助金	No.	61
予算事業名	市内公共交通対策事業		
予算科目	款 02総務費	項 01総務管理費	目 09交通安全対策費
	節 19負担金補助及び交付金	細々節 01市内循環バス運行補助金	
部課名	建設部道路交通課	電話番号	049-251-2711
		内線	412

補助金の根拠			
根拠条例等	条例		
	規則		
	要綱	富士見市内循環バス運行経費補助金交付要綱	
	その他		
開始年度	平成 8 年度	終期の設定	<input type="checkbox"/> 有(年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 無
補助金の分類	<input checked="" type="checkbox"/> 事業費補助	<input type="checkbox"/> 団体運営費補助	<input type="checkbox"/> イベント等補助
	<input type="checkbox"/> 投資的補助	<input type="checkbox"/> 扶助費的補助	

補助金の概要	
目的 (何を対象にどのような成果を得たいのか。)	交通弱者といわれる高齢者・障害者をはじめ、駅を利用する通勤・通学者等や公共施設の利用者の交通手段を確保することを目的とする。
導入の経緯 (どうしてこの補助制度を導入しなければならなかったのか。)	当市の公共交通については、路線バスはあるものの一部の地域に限られており、市役所をはじめとする公共施設等へのアクセスがなく、市民に不便をきたしている状況であった。 そこで、交通不便地域や交通弱者といわれる高齢者・障害者の方に対する交通対策（交通手段の確保）の一環として、本補助制度を導入した。
対象資格 (対象資格はどのようなものか。)	循環バスを運行するバス事業者
交付内容等 (どのような基準で交付しているのか。また、交付時の確認資料はどのようなものか。)	補助金額…次の経費の合算額を基に、運行実績を考慮して交付決定する。 ①運行経費から運送収入を控除した経費 ②循環バスの改善に要した経費 交付時の確認資料 ①循環バス事業計画書 ②循環バス運行原価見積総括表
積算基礎 (予算額をどのように積算しているのか。)	平成22年度予算額 25,100 千円 運行経費想定額－運賃収入見込み額(平成20年12月から1年間の運賃収入の実績) 39,713,326円-15,019,013円≒25,100,000円

補助割合等	
補助割合等の明示	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 定額) <input type="checkbox"/> 無 (「予算の範囲」のみの場合を含む。)
財源内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> 国・県・市 <input type="checkbox"/> 国・市 <input type="checkbox"/> 県・市 割合 市 国 県 (分数表示)
上乗せ・横出し	<input type="checkbox"/> 国・県の基準よりも拡充して交付している <input type="checkbox"/> していない
上乗せ・横出しがある場合の内容と金額	

交付実績とコスト		(単位: 件・円)		
項目	平成20年度(決算)	平成21年度(決算見込)	平成22年度(予算)	
交付(見込)件数	2件	1件	1件	
交付(見込)件数の増減要因		—	—	
決算(予算)額(A)	25,083,743	23,908,463	25,100,000	
財源内訳	国庫支出金	0	0	
	県支出金	0	0	
	その他	0	0	
	一般財源	25,083,743	23,908,463	
概算人件費(B)	77,332	38,787	38,777	
概算補助事業費(A+B)	25,161,075	23,947,250	25,138,777	
実績報告の確認(実績報告書受理時の確認資料は、どのようなものか。)	実績報告書提出時に次の書類を添付させている。 ①循環バス運行収支決算書 ②年間の輸送人員、運送収入報告書			

事業環境等	
見直しの有無	<input type="checkbox"/> 有 (年度) <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※5年以内の見直しに限ります。
有⇒見直内容 無⇒見直さない理由	補助制度自体は見直しを行っていないが、20年度に次の2項目を見直した。 ①自動車NOX-PM法制定により、バス車両が平成20年12月23日以降運行ができなくなることから車両の入替えと同時に、改めて広くバス事業者を募る機会を設け、市ホームページで「富士見市内循環バス運行計画公募要領」に基づき募集を行い、バス事業者を選定した。 ②運行路線の所要時間が不足気味で、バスの運行にあたり遅延が発生することから、運行ダイヤの見直しを行った。

廃止した場合の問題点 <small>(廃止した場合の問題点や継続しなければならぬ理由など)</small>	循環バス以外に民間の路線バスも運行をしているが、一部の地域に限られており、市役所や公共施設へのアクセスに適した路線がないため、廃止した場合には高齢者・障害者など、市民の足の確保が困難な状況となるおそれがある。また、民間バス事業者による新規路線の拡大についても、採算性等を考慮すると難しい状況にある。
---	---

評価			
評価項目		判断理由	評価
必要性	社会経済情勢に合致し、行政の実施が望ましいか	民間の路線バスでは市役所など公共施設へのアクセス方法がなく、また、民間バス事業者による新規路線の拡大についても、採算性を考慮すると難しいことから、市内循環バスは、市民の交通手段を確保するため必要不可欠である。	<input checked="" type="checkbox"/> 望ましい <input type="checkbox"/> そうでもない
優先性	厳しい財政状況の中で優先的に実施すべきか	県内40市中31市で循環バスを運行している。どこの自治体においても交通不便地域の解消や高齢化の進展による交通弱者対策などが課題になっていると思われる。本市においても優先的に取り組むべき施策と考える。	<input checked="" type="checkbox"/> 優先すべき <input type="checkbox"/> 優先度が低い
有効性	目的に対して成果が出ているのか	バス2台で8コース運行しており、平成21年度の利用状況は165,289人(平成20年度153,759人)であり、年々利用者も増加し定着してきている。	<input checked="" type="checkbox"/> 成果が出ている <input type="checkbox"/> あまり出ていない
継続性	現状のまま継続して、当初の導入目的を達成できるか	市内循環バスの利用者については、運行当初と比べると3倍以上に増えており、市民の交通手段として定着してきている。引き続き、利便性を高めるため、利用者ニーズを踏まえた運行に努めていく必要がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成できる <input type="checkbox"/> 達成できない
所属長評価	<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 見直しの上継続 <input type="checkbox"/> 重点化する(コストを集中的に投入したい) <input type="checkbox"/> 制度の変更(補助対象経費・補助率の変更) <input type="checkbox"/> 廃止 (年度まで)		
	見直しの上継続を選択した場合には、その内容を記入してください。その他問題点・課題等があれば、その内容を記入してください。		